

2021年度 研究センター事業報告書

研究センター名	コリア研究センター
---------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでいいだけわかりやすく記述してください。

はじめに

2005年度に発足した立命館大学コリア研究センターは、2018年度からは激化する東アジアの葛藤と理解のジレンマを乗り越えるために、葛藤・対立のモメントを最小化しながら、交流と相互理解をいっそう促進する道筋を探り、社会的に方向性を示すことのできる政策志向の研究拠点として活発に学術活動を続けている。

1. 学術研究事業**(1) 国際学術交流企画****①日韓中・国際学術会議**

2021年5月23日（水）に、コリア研究センター、東國大学校北韓学研究所・吉林大学東北アジア研究院の共同開催（主管：東國大学校）で「日韓中・国際学術会議：米バイデン政権発足後の北東アジアの平和安全保障関係と朝鮮半島」をオンラインで開催した。

②第3回アジアとヨーロッパにおけるヘイトスピーチに関する国際ワークショップ

2021年8月27日（金）・28日（土）に、衣笠キャンパスにおいて、コリア研究センター主催、ソウル大学校コミュニケーション研究所とパリ大学中国・朝鮮・日本研究センターの共催により「第3回アジアとヨーロッパにおけるヘイトスピーチに関する国際ワークショップ：パンデミック、恐怖、そしてヘイト」を開催した。

③2021 統一人文学世界フォーラム

2021年12月4日（土）に、コリア研究センター、建国大学校統一人文学研究団（韓国）、中国海洋大学韓国研究所（山東省青島市）、朝鮮大学校朝鮮問題研究センター（東京都小平市）、の4機関の共同開催（主管：建国大学校）で、「2021 統一人文学世界フォーラム：コリアンディアスポラ文学の創造的可能性」をオンライン方式で開催した。

(2) RiCKs 月例研究会

RiCKs 月例研究会は前センター発足時からセンターの核心的な事業として取り組んできた企画であり、主として、博士学位取得前後の新進気鋭の若手研究者や関西地域に滞在中の海外研究者に発表を依頼してきた。2021年度は第117回から第119回までの3回を、すべてオンライン方式で開催した。

①第117回 RiCKs 月例研究会（5月28日） 報告者：飯倉江里衣（神戸女子大学文学部助教）、

報告タイトル「韓国軍の中の満洲国軍出身朝鮮人と麗水・順天抗争時の民間人虐殺」

②第118回 RiCKs 月例研究会（6月18日） 報告者：孫・片田晶（立命館大学産業社会学部准教授）、

報告タイトル「在日朝鮮人の対抗的＝反差別のアイデンティティの痕跡を求めて－雑誌『ちゃんそり』の分析の試み」

③第119回 RiCKs 月例研究会（7月16日） 報告者：辻本登志子（立命館大学国際関係学部准教授）、

報告タイトル「女性の移住と人身取引－韓国のフィリピン人女性エンターテイナーに関する研究を中心に」

(3) その他の学術企画と研究会

第13回立命館大学東アジア平和協力研究センター研究会（7月9日：主催：東アジア平和協力研究センター、

共催：コリア研究センター・アジア日本研究所、報告者：宮塚寿美子（國學院大学栃木短期大学）、報告タイトル「北朝鮮研究の視座－拉致問題から「愛の不時着」まで」ほか、多数の学術企画を共催、後援した。

2. 若手人材育成

すべての学術研究事業に若手研究者の積極的な参加を促し発表を奨励するとともに、研究基盤を提供した。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2022年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
センター長	勝村 誠	政策科学部	教授
運営委員	庵途 由香	文学部	教授
	石川 亮太	経営学部	教授
	金丸 裕一	経済学部	教授
	金 友子	国際関係学部	准教授
	宋 基燦	映像学部	准教授
	高屋 和子	経済学部	教授
	鄭 雅英	経営学部	教授
	中戸 祐夫	国際関係学部	教授
	松本 克美	法務研究科	教授
	文 京洙	国際関係学部	特任教授
	総田 芳憲	立命館アジア太平洋大学	教授
	轟 博志	立命館アジア太平洋大学	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)			
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員		
	補助研究員・リサーチアシスタント		
	大学院生		
	学振特別研究員 (PD・RPD)		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	宋 隠宮	文学部	非常勤講師
	森 類臣	文学部	授業担当講師
	宋 基栄	国際関係学部	授業担当講師
	三上 聡太	文学部	授業担当講師
	張 恵英	言語教育センター	非常勤講師
	塚崎 昌之	文学部	授業担当講師
	橋本 妹里	文学部	授業担当講師
客員協力研究員	新里 瑠璃子	京都女子大学	非常勤講師
	林 茂澤	—	—
	徐 潤雅	駐大阪韓国文化院世宗学堂	非常勤講師
	高 賛侑	ライフ映像ワーク	代表
	吉川 絢子	佛教大学歴史学部	非常勤講師
	尹 健次	—	—

	金 東僖	高麗大学	研究教授
	波佐場 清	—	—
	許 燕華	—	—
	沈 熙燦	延世大学(韓国)近代韓国研究所	教授
	戸塚 悦郎	—	弁護士
	梁 仁實	岩手大学人文社会科学部	准教授
	青柳 純一	金起林記念会	共同代表
	申 東洙	京都市立日吉ヶ丘高等学校	非常勤講師
	川瀬 俊治	—	—
	宇都宮 めぐみ	—	—
	金 賢泰	特定非営利活動法人 コリア NGO センター	職員(対外協力担当)
	坂本 悠一	—	—
	関 スラ	大阪外国語専門学校	非常勤研究員
	高 恩美	東亜大学校 石堂学院	特別研究員
	洪 ジョンウン	駐大阪韓国文化院世宗学堂	非常勤講師
	裴 始美	韓国独立記念館	研究員
	徐 勝	又石大学校	碩座教授
	林 仁澤	Hankyoreh Media company	ジャーナリスト
	許 湖峻	ハンギョレ新聞	記者
	曹 昇美	韓国放送通信大学大学院	チュータ
	生駒 智一	—	—
	HAM YONGKWON	—	—
	李 裕淑	同志社大学	非常勤講師
	李 善英	—	—
	呉 炳守	The Northwest History Foundations	Research Fellow
	郭 健弘	漢南大学校文科大学史学科	副教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
研究所・センター構成員 計 52 名 (うち学内の若手研究者 計 0 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2022年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	Kaseda, Yoshinori	<i>The Dokdo/Takeshima</i>	共著	2021年4月	Brill	Paul Huth, Sunwoong Kim,	pp. 125-151

		Dispute (担当章名: Takeshima in Japanese Politics and Foreign Policy)				Terence Roehrig(編)	
2	勝村 誠	安重根・「東洋平和論」研究：21世紀の東アジアをひらく思想と行動（第1部第3章：安重根「安應七歴史」「東洋平和論」「聴取書」の「発見」と受容——一九六九年～二〇〇五年を中心に）	共著	2022年1月	明石書店	龍谷大学社会科学研究所附属安重根東洋平和研究センター・李洙任教授退職記念刊行委員会 [編]	pp. 76-103
3	文京洙	北朝鮮研究の新地平——理論的地域研究の模索	共著	2022年3月	晃洋書房	中戸祐夫・崔正勲編	PP. 56～76
4	石川亮太	交隣と東アジア	共著	2021年11月	名古屋大学出版会	岡本隆司	PP. 80～110, 178～207
5	石川亮太	近代東アジアと日本文化	共著	2021年11月	銀河書籍	野世英水・加藤斗規	PP. 275～294
6	金丸裕一	台湾を知るための72章【第2版】	共著	2022年3月	明石書店	赤松美和子・若松大祐編	pp. 151-152.
7	金友子	『レイシズムを考える』（担当箇所：第1章「日常をとりまくレイシズム」）	共著	2021年5月	共和国	清原悠編、共著者：明戸隆浩、安部彰、伊藤昌亮、遠藤正敬、兼子歩、金友子、清原悠、小林・ハッサル・柔子、五味渕典嗣、澤佳成、隅田聡一郎、高史明、竹田恵子、堀田義太郎、松本卓也、間庭大祐、百木漠、山崎望、山本興正、山本浩貴、梁英聖	PP. 29-53

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	文京洙	韓国「四・三特別法」改正——「積弊清算」の新局面	単著	2021年6月	『世界』945号 岩波書店		PP. 10～14	無
2	文京洙	あらためて済州四・三を考える——抗争論の弁証	単著	2022年1月	『在日総合誌 抗路』9号 図書出版クレイン		pp. 126-131	無
3	石川 亮太	在日コリアン1世女性のライフ・ヒストリー：全永女（1932年生）の手記を中心に	単著	2022年1月	立命館大学経営学会、立命館経営学、60巻5号	なし	PP. 143～179	なし
4	金丸 裕一	黒田四郎「南京回想」の探究—戦時日中キリス	単著	2021年7月	キリスト教史学会、『キリスト教史学』第75集		pp. 33-56.	有

		ト教関係史をめぐる実証研究						
5	金丸裕一	中国、香港、台湾のキリスト教と日本—その歴史と展望	共著	2021年9月	かんよう出版、『キリスト教文化』第17号	渡辺祐子・石川照子・桐藤薫・倉田明子・松谷曄介	pp. 3-35.	招待論文
6	金丸裕一	『湖畔の声』に収録された中国関係記事目録(稿)—戦後編—	単著	2021年9月	立命館大学経済学会、『立命館経済学』第70巻第3号		pp. 80-90.	無
7	金丸裕一	危機下的日中基督教関係史—“中国認識”的諸面相—	単著	2021年12月	中国社会科学院近代史研究所、『抗日戦争研究』2021年第4期		pp. 94-106.	有
8	金丸裕一	戦後キリスト教雑誌におけるアジア関係記事目録(稿)—『ニューエイジ』と『月刊キリスト』、及び『びーいん』	単著	2021年12月	かんよう出版、『キリスト教文化』第18号		pp. 1-21.	依頼原稿
9	金丸裕一	賀川豊彦による「中国」の報告／類比(1)—1915年～1925年	単著	2022年3月	立命館大学経済学会、『立命館経済学』第70巻第4・5・6号		pp. 95-114.	無
10	金丸裕一	『中外日報』に連載された賀川豊彦の署名記事をめぐって	単著	2022年3月	賀川豊彦記念松沢資料館、『雲の柱』第36号		pp. 71-86.	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	総田芳憲	米朝首脳会談後の米朝関係と日本	2021年5月	日韓中・国際学術会議：「米バイデン政権発足後の北東アジアの平和安全保障関係と朝鮮半島」、立命館大学コリア研究センター・東国大学北韓学研究所・吉林大学東北アジア研究院共催、オンライン開催	
2	勝村 誠	小説家 中西伊之助の平和思想と反戦活動	2021年9月	圓光大学校韓中関係研究院・東北アジア人文社会研究所第29回コロキウム「東北アジアの平和思想と帝国主義戦争」	
3	文京洙	제주 4.3 당시 일본으로 건너간 제주인들: /월경을 둘러싼 단절과 배제	2021年8月	濟州大学校・大邱大学校共同国際学術會議 길 위의 경계인: 현대의 부재와 떠도는 영혼(オンライン)	
4	文京洙	文在寅政権の成果と課題—第20代大統領選挙を見据えて	2021年12月	国際高麗学会日本支部特別講演会於：立命館大学 OIC	
5	文京洙	戦後在日朝鮮人の社会と運動—シティズンの<デモス>・同胞の<エトノス>	2022年2月	朝鮮族学会主催「日本を生きるエスニック集団の過去、現在、未来—在日コリアンに着目して」(オンライン)	
6	石川亮太	朝鮮開港期の海藻貿易について	2021年5月	東アジア日本学会春季国際学術大会(韓国)	なし
7	石川亮太	近代朝鮮における海藻の生産と流通	2021年12月	2021年度海女研究集会	なし
8	金丸裕一	『中外日報』紙上の中国キリスト教関係記事について	2021年5月	第22回中華圏プロテスタント研究会、金城学院大学	
9	金丸裕一	1920年夏における賀	2021年10	第33回賀川豊彦学会大会、明	

		川豊彦の初訪中をめぐって	月	治学院大学	
10	金丸裕一	戦後キリスト教雑誌におけるアジア関係記事目録の編纂からみえてきたこと	2022年3月	アジアキリスト教交流史研究会研究大会、立命館大学	
11	金友子	『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』が日本社会に与えたインパクトとその意義	2021年12月	第41回 国際シンポジウム「差別と心理学:マイクロアグレッションを理解し、日本社会の変革につなげる」(オンライン (Zoom))	
12	김우자(金友子)	실태조사에 나타난 제일조 선인 여성의 삶 : 코로나 19 팬데믹 상황과 복합적 차별	2021年12月	2022년도 제2회 국제심포지엄 "일본의 문화 권력과 서벌턴 : 여성(女性) · 예인(藝人) · 죄수(囚人)"(オンライン (Zoom))	

4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	「女性」の観点から考察する日韓社会の課題」日韓国際シンポジウム	立命館大学衣笠キャンパス(存心館: ZS201)およびオンライン (Zoom Webinar)	2021年8月	200名	立命館大学東アジア平和協力研究センター、立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会 協力: 立命館大学コリア研究センター、立命館大学アジア・日本研究所

5. その他研究活動(報道発表や講演会等)

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	文京洙	濟州四・三とは何か:濟州四・三の概要、問題解決の到達点と課題	梨木ピースアカデミー第6期コース24	2022年3月26日
2	金友子	マイクロアグレッション—日常生活に埋め込まれた無自覚の差別—	2021年度春季人権週間プログラム(立教大学(オンライン開催))	2021年7月
3	金友子	マイクロアグレッションとは何か:日常に埋め込まれた無自覚の差別を考える	京都府立桂高等学校 教職員人権研修会(京都府立桂高等学校(京都市西京区))	2021年11月
4	金友子	マイクロアグレッションとは何か:無自覚のレイシズムを考える	2021年度SDGs研修II~マイクロアグレッションとは何か~(立命館大学附属校(オンライン開催))	2021年11月
5	金友子	マイクロアグレッション—日常生活に埋め込まれた無自覚の差別—	国際基督教大学第24回人権セミナー(zoom(オンライン))	2021年12月
6	金友子	マイクロアグレッションを考える~日常のなかの無自覚な差別~	大阪府人権総合講座(後期・人権問題科目群)(大阪府大阪市(オンライン))	2022年2月

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割

